

大手ファブ トップインタビュー⑪

2023年 わが社の 経営戦略

川岸工業

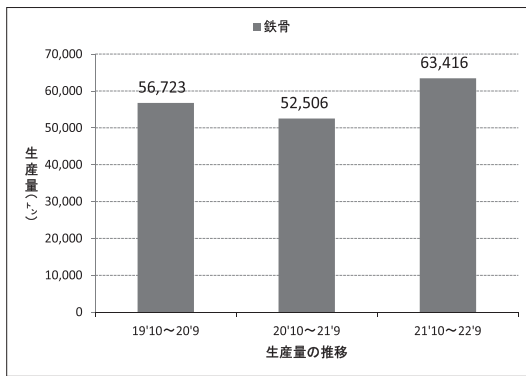


金本 秀社長

業績について。

金本 当社は9月決算だが、第3四半期に決算修正を行い、売上高260億円、経常利益16億円、純利益12億円と発表した。想定した数値をほぼ達成できると見込んでいる。

金本 山積み量はおおむね1年分を確保しているが、工程のずれ込みが、202



4年問題を前にして今なお常態化していることに強い懸念を抱く。ずれ込みが生じることによって当然、他の受注物件の工程にも影響を与え、それを最小限に留めるためには余計な業務と費用がかかる。

2024年に働き方改革関連法が適用開始されることで、これまで以上に追加変更等への対応が厳しくなることをゼネコンに理解して貰う必要がある。幸いにして、当社は国内に千葉第一工場、千葉第三工場、山口工場、岡山工場、そして大阪工場の5つの工場を保有し、年間合計7万トンの鉄骨をコンスタントに生産している。それぞれの工場の特徴や機能を生かして

効率的に物件の振り分けを行い、体制強化を図りながら工程のずれ込みの問題にも対応していきたい。

今後の課題と戦略は。金本 自己資本利益率(ROE)の改善が経営課題と捉えており、そのために取り組むべき課題は多い。

『仕事で答えを出すファブ』の自負
人材確保と育成が大きなテーマに

4年問題を前にして今なお常態化していることに強い懸念を抱く。ずれ込みが生じることによって当然、他の受注物件の工程にも影響を与え、それを最小限に留めるためには余計な業務と費用がかかる。

2024年に働き方改革関連法が適用開始されることで、これまで以上に追加変更等への対応が厳しくなることをゼネコンに理解して貰う必要がある。幸いにして、当社は国内に千葉第一工場、千葉第三工場、山口工場、岡山工場、そして大阪工場の5つの工場を保有し、年間合計7万トンの鉄骨をコンスタントに生産している。それぞれの工場の特徴や機能を生かして

効率的に物件の振り分けを行い、体制強化を図りながら工程のずれ込みの問題にも対応していきたい。

今後の課題と戦略は。金本 自己資本利益率(ROE)の改善が経営課題と捉えており、そのために取り組むべき課題は多い。

『仕事で答えを出すファブ』の自負
人材確保と育成が大きなテーマに

利益の確保はもとより、それを支える熟練工の高齢化や現場管理者の人手不足が深刻さを増していく中で5年、10年先をにらんで、人材確保にどのように取り組んでいくのが喫緊の課題となっている。

川岸工業は、『品質や納期など顧客の信頼や期待に仕事で答えを出すファブ』と自負している。自社で保有する高度な製作体制を発揮して、4面ボックス構造を伴う超高層案件等で、お受けした仕事をしつかりとやり遂げることに

鍵となるが。金本 現実にはなかなか人材が集まらない。機械化による省力化やDXなどの取り組みを強化しようとしているが、最終的には製造業として優秀な技術・技能者をどれだけ抱えていけるかで、展望が大きく異なる。

金本 今年度も設備投資に計上しており継続的に実施していく。BIMについても生産設計部に開発費を予算計上しているが今後の課題は多い。